

JUA Newsletter for Next Uro-Generation

No. 2
2016

医学生・初期研修医のための泌尿器科 Newsletter

甲信越地方版



時計台がシンボルです

長野県立こども病院の紹介

信州大学医学部泌尿器科 医局長 平形 志朗

【アルプスの山々を望む、美しい環境の中で診療を行っています】

信州の山々に囲まれた土地に私たちの病院があります。レンガ造り（調）の建物に、シンボルとなる時計台が目立つ病院です。この時期病院を取り囲む日本アルプスの山々は雪化粧をしており、写真では伝えきれないほどの美しい風景を作り出してくれています。寒いのですが…。

またこの地域は、背の高い建築物（当院を除く）は条例で禁止されており、里山の風景も風情があります。移住してくる方が多いのもよくわかります。

そんな環境のなか、当院は『長野県内における小児周産期医療の最後の砦』として日々診療を行っております。現在、泌尿器科部長として市野みどり先生が常勤医として診療を行っております。また信州大学より週2回非常勤として診療に参加しています（筆者）。平成29年度からは常勤医が一人増え、常時二人の体制となることが決まりました。

【小児泌尿器科医療においては、きめの細かいケアが大切です】

長野県全域より患者さんが集まってきたり、年々外来・手術件数ともに増加してきています。昨年は96件の手術を行いました。受診される患者さんのほとんどは近隣の医療

機関からの紹介です。水腎症、膀胱尿管逆流症、尿道下裂、停留精巣の手術が大半を占めます。

当院の特徴として、下部尿路機能評価（透視下膀胱内圧測定）を積極的に行っていきます。

特に先天性水腎症や膀胱尿管逆流症では、形態的な治療を外科的治療で治療しても下部尿路機能が正常ではないために十分な効果が得られないことがあります。術前に下部尿路機能を評価し、治療内容を検討しておくことによりその後の外科治療がより効果的に行うことができるようになってきました。下部尿路機能評価はその他の疾患にも有効です。たとえば夜尿症にも悩む患者さん（と親）は、ある一定の確率で排尿筋過活動を有します。ほとんどの夜尿症の患者さんでは経過観察・アラーム設置・抗利尿ホルモンなどで軽快しますが、下部尿路機能に異常がある場合は解決しません。難治性の夜尿症を持つ患者さんが改善に向かう様子は非常に嬉しく思いますし、両親の満足度も高いように感じます。

また、下部尿路機能評価は二分脊椎や髄膜瘤のような

神経因性膀胱の診療には不可欠であり、積極的に行うことで感染・腎機能障害から身体を守るができると考えています。

外来診療・入院診療ともに見目麗しい看護師さん・クラークさんに囲まれ（写真で確認してください）楽しく行っています。日々多くの患者さんが訪れ多忙ではありますが、アルプスの山々を眺めまた小さな患者さんたちの元気を貰い頑張っています。

少しずつでも小児の診療ができる泌尿器科医が増えていけるよう願ってやみません。今後も啓蒙活動や勧誘に精を出していきますので是非ともご協力をお願いします。



新潟大学医学部泌尿器科

黒木 大生

君も細胞の鬼にならないか！

新潟大学大学院腎泌尿器病態学分野で入局5年目になる、黒木大生と申します。今年から大学院生となり、外来診療や病棟管理、手術に加え、実験や研究も開始しました。

泌尿器科に入局を考えている先生方の中で、実験や研究に強い興味を持っている方は恐らく少数なのではないかと思われます。実際に私もその分野に興味があったかといえ、興味は薄かった方だと思えます。いや、正直に答えませす。全く興味がありませんでした。しかし研究生活を開始してみると想像以上に面白く、得られるものもありましたので、お伝えしたいと思えます。

【前年比200%のモテ率】
細胞を用いた基礎研究を開始するにあたって、まずは細胞を育てることが何よりも大事です。しかしその細胞は、種類にもよりますが、そう簡単には育てはくれません。

黙っていても子は育つと言いますが、細胞に関しては黙って育ててくれません。最高の環境に置き、頻りに会いに行き、愛で、時々甘い言葉をかけてやらなければ、言葉の通り離れてはがれていってしまいます。当初は何万、何億の細胞が私の元を離れてはがれていきま

した。「話せば分かる」と何度語りかけたことか。しかし後悔先に立たずなのであります。いったん気持ちを固めた細胞は、こちらを振り返ることなく私の元から離れてはがれていってしまうのであります。

この手のかけ方、何かに似ていると思いませんか？そう、我々人間の恋愛にそっくりじゃありませんか。細胞培養を開始してから私の生活は一変しました。細胞にかけるための甘い言葉を編み出し、少しでも細胞にモテるためにおしゃれな服装を心がけ、何か会議

があれば、自分の意見を持っている男をアピールするため無闇矢鱈に「それは違う」と発言し、いつ何時終電を逃した細胞が我が家を訪れてもよいように自宅を常にきれいに整えました。細胞もこちらの努力に応えてくれたのでしよう。すくすくと育っていくではありませんか。その時私は『新潟大学の細胞恋愛マスター』の称号を手に入れました。



まさに『前年比200%の驚異のモテ率』(※個人の計算です)。一芸は道に通ずるといいますが、おそらくこの言葉を最初に言った人は細胞培養をしていた人ではないかと思われます。

【細胞の鬼】

しかし、細胞は甘やかしてばかりではいけません。非情なことですが、狙った実験結果を得るために、時には細胞にあまり育ってもらいたくない瞬間もあります。悲しいことですが、そんな時には細胞に辛くあたらないければなりません。平然とした顔で細胞に向かい合っているように見えるかもしれませんが、心では泣いているのです。「育ってくれるな」と本心とは裏腹なことを願っているのです。いつからか人は私のことを『細胞の鬼』と呼び始めました。これほどまでに細胞を愛している男のことを。社会とプロレスにはヒールが必要ですが、いつか私が現役を退いた時、

この辛い思いを著した本を出版することが私の夢です。

【新潟大学泌尿器科】

こんな私ですが、日常は至って真面目に仕事に打ち込んでいます(※個人の思い込みです)。新潟大学はこんなくだらない文章を書く、ちょっとアレな若手と、真面目な後輩と優しい先輩方の総勢20名ほどでわいわいと仕事をしています。もしも興味を持ってくださった先生がおられたら、ぜひ見学にお越しください。夜には全国から取り寄せた銘酒が皆さんを迎えてくれると思えますよ。飲めない方はコニカルチューブに入れてテイクアウトして差上げます。

皆さんと新潟の地で仕事できる日を楽しみにしています！



山梨大学医学部泌尿器科

志村 寛史

私が泌尿器科を選んだ理由

私は現在山梨大学医学部付属病院の泌尿器科に所属している、入局2年目の医師です。山梨で生まれ育ち、大学もこの山梨大学を卒業しましたが、実は、在学中は泌尿器科の魅力を全く知りませんでした。初期研修を行いなから進むべき科を模索している最中、身内が前立腺のロボット手術を受けることとなったのが、泌尿器科への道の第一歩だった気がします。研修2年目で泌尿器科を研修し、**外科的でありつつも自分の科で診断から治療まで完遂すること、内科的管理も重要であること**など、その魅力に気づくことができました。

【信頼できる先輩や後輩に囲まれ、毎日奮闘しています】

さて入局後ですが、近い学年の先輩方も1名ずつ、自分も同期はいない状況で、他の医局に比べると心許ないところもあります。多くの経験や指導

を独り占めできる恵まれた環境でした。私の医局は、

入局1年目でも外来を任せていただき、手術症例は自

身が執刀医として手術ができます。自分が診断し、治療戦略を練り、手術の準備をし、手術を行い、その後のフォローもするという一連のストーリーに非常にやりがいを感じます。自分一人ではいくら教科書や論文、ビデオを見てもうまくいかない時も当然あります。そんな時、上司の先生方は気軽に相談に乗ってくれ、一緒に考えてくれます。自分でやらねばという責任感と、ひとりではないという安心感との絶妙なバランスの中で鍛錬を積んでいます。

当院泌尿器科の特色と私のさせていた

ただいている業務内容を紹介します。教授をはじめ当院は排尿機能に力を入れてるのは勿論、腫瘍や透析（腹膜透析も大学で行っています）、その他女性泌尿器や小児にも手広く、全員が触れる機会があります。私も種々の学会に参加しそれぞれの分野の魅力を肌で感じ取っています。手術に関しては、入局1年目からロボットでの前立腺全摘をはじめ、腹腔鏡手術など多くの手

だと思っています。

【今は、何でもチャレンジしたい！】

術を執刀させていただいています。当然うまくいかないことが多いので、何度目自分や他の術者のビデオを見てフィードバックできるようにしています。実際に執刀医にならないと、何が難しいのか、何がコツなのか、注目すべきポイントに気がつきにくいので、早い段階でそういったことが学べるのはありがたく思っています。論文投稿や臨床研究なども、諸先生方に急かされつつも、的確なアドバイスを頂きながらブラッシュアップできていると思っています。とにかく、諸先生方の面倒見が非常によいのです。上司のことばかり述べましたが、後輩も優秀でいつも刺激になります。とにかく楽しく一体感のある職場であることが伝わればいかなと思います。

【プライベートの時間も大切です！】

仕事のことはばかり説明しましたが、多少プライベートな面も。家庭では奥さんといういろいろなところへ遊びに出かけたり、趣味のバスケットボールをしたり、医局でのゴルフに誘っていただきその練習に勤しんだりと充実しています。泌尿器科はある程度プライベートの時間が確保できるのも魅力の一つ

私の今後についてですが、そんな恵まれた環境を存分に活用するべく、来年度より大学院に入学する予定です。勿論自分で考えることが大前提ですが、行き詰まった時親身になっていただける先生方のいる環境というのは非常に心強いです。それは大学院に限ったことではなく、日常診療にも言えることなのですが、そういった先生方は今後の私の目標であり、まずは一人前の泌尿器科医を目指していきます。その過程で専門性を深めていきたいと思いますが、まだまだやりたいことや勉強しなければならないことが多く、とりあえずは何でもやってみようという気持ちです。まだまだ未熟な私ですが、あらゆる可能性の広がっている今の状況に感謝しつつ、日々の診療に励んでいきたいと思っています。